

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

創刊記念号

- 記念特集／トップインタビュー
伝統を受けつぎ、新しいページを拓く 松田博青理事長
最良の教育環境をめざす 長澤俊彦学長
- 学部長メッセージ
魅力ある学部教育をめざして
- 学部・大学院トピックス
学部の特色を生かした取り組み、研究活動・連載

記念特集 ● トップインタビュー

杏林大学がいま、めざすこと

・国公立のいずれの大学もいま、個性の一層の明確化、社会のニーズに応える学部教育の充実、地域振興の核、産学連携などを課題としてかかえて改革を進めています。医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の4学部を擁し総合大学として発展してきた杏林大学が、そして各学部が、何をめざし、どのように変化し新しい姿になりつつあるのかなど現状と方向性について、学生、保護者、卒業生をはじめ杏林大学を支えてくださっている方々に知っていただきたく、このたび「杏林大学新聞」を発行することになりました。創刊号では、まず杏林大学の歴史、いまめざしていることなどについて大学トップの松田博青理事長と長澤俊彦学長に伺いました。

理事長インタビュー

伝統を受けつぎ、新しいページを拓く

理事長 **松田博青**

聞き手
外国語学部教授 **黒田有子** (大学新聞編集長)

大学創立の経緯 医学部開設 2つのキャンパスでスタート

——杏林大学は何をめざして設立されたのか、学園の歴史的なことなどいろいろお伺いしたいと思います。

杏林学園短期大学の開学は1966年で、今年で43年を迎え、松田博青理事長が就任されたのが1988年でそれから21年経ちました。1966年に杏林学園短期大学が開設された当時のことで印象に残っていることがありますでしょうか。

松田：その頃、私は慶應義塾大学関連の病院に行っていて、杏林短期大学には在籍しておりません。したがって短大創設のいきさつについてはほとんど知りません。

——杏林学園は短大第1回の卒業式を挙げて1968年に八王子市宮下町の校地を購入しました。1970年に医学部が開設さ

れましたが、医学部の1・2年生の教養課程は八王子キャンパスで行われていますね。

松田：じつは医学部開設の前に、薬学部を開設しようという計画があり、その準備をしておりました。当時の薬学部は東大薬学部が教員人事等を含めてほとんどすべてを握っていましたので、なかなか実現できそうにもなかったのです。そうこうしているうちに、文部省が戦後21年ぶりに医科大学設立を認可することになったこともあって、薬学部ではなく医学部を創立することにしました。当時の三鷹のキャンパスの敷地面積では文部省の大学設置基準に足りないもので、八王子で13万㎡の校地を購入したのです。

——杏林大学は三鷹と八王子の2つのキャン

パスでスタートしたとのことですが、行き来、交流はどのようにしていたのでしょうか。

松田：1970年に医学部を開設した時点では、八王子キャンパスで医学部の教養課程の1年生が学び、三鷹キャンパスは短大専用でした。医学部の第1回入学生は99名でしたが、行き来といっても車か電車とバスを利用するよりしよがなかったですね。——学生が少数だったこともあり、先生方は学生全員とよくコミュニケーションをとられたのでしょうか。

松田：私の父 松田進勇は、医学部開設後の3、4年間は、毎週土曜日に20人ほどの学生を自宅に招いて、カレーライスその他の料理でもてなし、夜遅くまで楽しくにぎやかに話し合いをし、宿泊させたりして、いわば寺子屋的な雰囲気がありました。

なぜ「総合大学」なのか 4学部構成の理由

——杏林学園は現在4学部と1専門学校を擁していますが、大学をこのような学部構成にしているのはなぜでしょうか。

松田：このような構成になるように学部を創設した理由は2つあります。1つは英語の「university」を日本語に直すと「総合大学」になりますが、これは、人文科学系、社会科学系、自然科学系、そして医学部の4つを含んだものが「総合大学」であるというのが正しい定義だと思います。杏林大学は1970年に医学部を開設し、1979年に杏林短大を保健学部へ改組しましたが、それならば「university」の概念にそった学部をつくり「総合大学」にしよう。もう1つは「総合大学」になることによって、教職員・学生がプライドを持つことができるだろう。このような理由から、1984年に社会科学部（現在の総合政策学部）、1988年に外国語学部を開設しました。

医学部の使命 医学教育と病院経営

——杏林の原点である医学教育と病院経営についてお伺いします。杏林に関わっている人達にとって、附属病院は誇りであると思うのですが、この多摩地域では拠点病院としての大きな使命も担っていますね。

松田：文部科学省は教育と研究の2つを大学の条件としており、診療は要件には必ずしも入らないのですが、一方で医学部は附属病院を持つべしという規定があるので病院を運営しているのです。

余談になりますが、アメリカなどでは医学部が直属の附属病院を持っているところはあまりありません。ハーバード大学医学部は教育と研究だけです。ただし、周辺にいくつかの病院を持っていて、そ



←三鷹キャンパスには医学部と日本有数の規模を持つ附属病院がある。ここではあらず、桜、銀杏など四季折々の自然が目を楽ませる。4月からは保健学部看護学科の学生もこのキャンパスで学ぶ。

↑3学部4000人の学生が学ぶ八王子キャンパス。キャンパスの中央に位置するのが大学の建学の精神「真・善・美」を表すロゴマーク。あしらった学生広場「コートヤード空」。6つのデンマーク製の東屋があり昼休みや放課後は学生の語らいの場となる。

建学の精神「真・善・美の探究」

——杏林大学の建学の精神は「真・善・美の探究」となっています。理事長は毎年入学式で「学問をして人のために尽くす」ことが大事だと話されていますね。

松田：建学の精神を「真・善・美」にしたのは私の父です。父が中国の思想・古典に造詣が深かったこともあり、おそらく中国の思想から、そして西欧の古典などからもヒントを得て、この3つの言葉を選んだのだと思います。

——理事長の話折にふれ伺っていると、真は科学的なものの見方、合理的な考え方を身に付けること、善は社会生活を営んでいく上で約束を守れる人間になること、美は相手を理解し、自分も相手に理解される

コミュニケーション力を身につけることと受け取れるのですが。

松田：私は真・善・美をそのように解釈しています。

——杏林大学のどの学部を卒業した人も、合理的・科学的なものの考え方ができる、社会生活で基本的な約束が守れる、コミュニケーション能力を身に付けているといった共通のエッセンスが産み出されると、大学全体の一体感のようなものが出てくると思います。

松田：それは、教員と学生が一層交流を深めることによって実現されるのでしょうか。学部が違えば教育や研究の仕方が異なり自分の理解を超える部分があるが、そこでお互いが、とことん議論すると新しい何かが見えてくることがあります。

「杏林」の由来

——「杏林」という言葉には「木」という字が3つも入っています。杏林大学は「あんず」がシンボルです。三鷹・八王子の2つのキャンパスにはたくさんの木があって、四季折々の美しい景色をもたらしています。私たち教員は学生を4年あるいは6年間かけて教育していますが、それだけではなかなか立派な「木」にはならず、本当に長い時間をかけてこそ人が育つのであるということ踏まえて「杏林」を大学の名称として選んだと理解してよろしいのですか。

松田：「杏林」の元々の意味はこうです。中国の蘆山に董奉（とうほう）という名医がいて、治療代を受け取らなかった。その代わりに、重病者には5株、軽病者には1株の杏を植えてもらった。すると数年で10万余の鬱然たる杏の林ができた。このような故事があり、後世、「杏林」を「良医」「医者」の美称とするようになったのです。私の父は外科医でしたので、その故事にちなんで「杏林」を大学の名前にしたのでしょう。だから、父には総合大学の構想はおそらくなかったと思います。私は医学部のある総合大学こそuniversityだという考え



で学部を増設してきました。ただ、学校の名前を変えることは簡単にはいかないので「杏林」という名前をそのまま残しているのです。

もう1つは、三鷹キャンパスに樹齢の古い木が多いのは、この敷地は大蔵省関東財務局所管の国有林の払い下げであり、木がもともと多かったこともあります。



理事長：松田博青 まつだひろはる
専門は救急医学。慶應義塾大学医学部卒業後、杏林大学教授などを経て1988年に杏林学園理事長に就任。91年日本救急医学会会長、2005年からは日本私立大学協会常任理事を務め、現在に至る。

あつては申し訳ないという姿勢が基本になければ医師としてはだめだと思います。——理事長がいつも言われている、先人が築いてきたものに対して謙虚な気持ちをもって学ぶことと、後に続いてくる者たちに思いやりを持ってそれを引き継ぎ、また可能であれば私たちがそこに新しい1頁を加えるということが、杏林大学の歴史の中に刻まれていると思います。人文系、社会科学系、自然科学系、医学部を含む総合大学の中では、たとえば哲学や倫理学、社会学などが人を育てる厚みとして支えているということもあるのでしょうか。

松田：それぞれの分野の技術や知識も大事ですが、そのベースとして昔の言葉という教養科目から学ぶことがなければ、それは単なる技術屋だろうと思います。——八王子キャンパスの学生が急病になったり、クラブ活動等で負傷して、周辺の病院にお世話になることがあります。多摩地域には杏林大学医学部の卒業生が医師になって在籍している病院がたくさんあります。

多摩地域にはたくさん杏の木が植えられて、やがて林になるというイメージがあるのですが、卒業生が多摩地域に特に多いのではなくて、全国に散らばっているのでしょうか。

松田：医学部の学生を地域別に何人という形で募集しておりません。地方からも多く入学してきています。地方の親が開業医をしているケースも少しありますが、医学部を卒業して医師になっても、田舎には帰りたくない、親の後を継ぎたくないというケースが増えていきます。理由としては、開業医の父親のように深夜に突然起こされて往診したり、食事中に急に呼び出しをうけたりするのを幼いときから見ており、自分はそれをしたくない、東京は便利だし、結婚して子供が生まれても田舎に帰りたくない、東京にいつづけたい、また何かあった時に困るから、母校の杏林大学の近くがいい、そういうことなどから、多摩地域に本学出身の医師が多いのかもかもしれません。

寄付金・学債をとらない 医学部

——杏林大学医学部は寄付金・学債をいただいていないせいもあると思うのですが、偏差値がどんどん上がり、私大医学部では上位にランクされ、医師国家試験合格率も高くなっています。

松田：医学部は当初は寄付金をとっていませんでした。私が理事長になる前後に文部省の責任者の一人の方から、私立大学の医学部はしばしば寄付金問題でトラブルを起こしており、そのために文部省が国会で代理答弁をさせられるが、これは困ったものだ、杏林大学医学部が寄付金をとらない方式を試みられないか、と打診があったので、あえて実行して現在に至っているというのがそのいきさつです。

それから20年たつと、杏林大学医学部は国立大学のように寄付金・学債をとらないで運営をしていることが世間で理解され、その結果、成績のよい学生が集まるようになり、それなりのプライドを持つことになったのだと思います。

ちなみに、杏林医学部の学生の親が医師というのは3割程度で、このことも他の多くの私大医学部とは異なる点だと思います。

国際教育・国際交流の意義

——理事長は毎年入学式で、この4月はどこそこの国からそれぞれ何名の留学生を迎えましたと必ず語られますが、これは杏林大学が国際教育・国際交流を大事なテーマとして取り組んでいることの表われですね。

松田：本学にはこれまでに毎年60～70人の留学生が入学し、現在400人を超える留学生が在籍しています。また、外国語学部、総合政策学部そして保健学部の学生が毎年海外留学、語学研修などのプログラムに参加しています。医学部でも6年次に実施するクリニカルクラークシップで海外の病院で研修を希望する学生が増えてきています。

国や言葉の数だけ文化や歴史があるとすれば留学はまさに「百聞は一見に如かず」です。留学先では今までと異なるものの考え方や見方に接し、さらに自分の考えを自分の言葉で伝えることが必要となります。

一方、大学としては教育の質を高めるためにも、外国の大学と協定を結び、学生や教員が交流をして互いに学ぶことで世界に貢献してほしいと考えています。学生にはさまざまな機会をとおして国際

交流の本質を学んでほしいと考えています。入学式は多くの学生に直接このメッセージを贈ることができる1つのよい機会です。

——現在いろいろな国際交流をしていますが、欧米だけでなく、特にアジアは地元ですからもっと交流を活発にしていきたいですね。若い人達の交流は、すぐには結果が出なくても、10年後、20年後に、必ず大きな成果をもたらすと思われます。

松田：今まで内からは見えなかったことが、外に出て異なるものに接することによって自国の良い点・悪い点、特色などいろいろなことがよくわかってくる、そして相互理解も深まっていくと思います。

学部教育の充実

——近年、日本の大学を取り巻く状況にはたいへん厳しいものがあり一歩あやまれば危機的状況におちいるおそれもあります。杏林大学は将来どういう方向にいくべきだとお考えですか。大学経営においてめざすべきことは何でしょうか。

松田：私立も国立もいずれも経営についてはいわば問題山積です。その時その時で熟考した上で最善と思うことを全力を尽くして事にあたればそれでよしとすべし、というのが私の基本的な考え方です。

学園経営について言えば、中期改革を具体的にどう遂行していくかです。学生が入学してこなければ経営が成り立ちません。教育の中身そのもの、つまり学生が確実に成長するように、学部教育を充実させていく必要があります。大学の評価を高めていくためのさまざまな方策が課題となっています。具体的なことは、教職員の方々にお任せしています。大学の規模は大きくなりました。人が多くなれば多くなるほど色々な意見を聴くことができます。風通しを良くして、良い意見は吸い上げて実行していきたいと思っています。

——学長を先頭にしてそれらの課題に取り組んでいくということですね。本日はありがとうございました。



学長インタビュー

最良の教育環境をめざす

学長 **長澤俊彦**
聞き手 外国語学部教授 **黒田有子** (大学新聞編集長)

1970年に 杏林大学医学部開設

——先生が学長に就任されて、取り組まれたこと、成し遂げられたこと、課題などについて伺いたいと思います。

まず杏林大学に来られた頃はどのような状況だったのですか。

長澤：杏林学園の創立は杏林学園短期大学が開学した1966年ですが、私は杏林大学医学部が開設された1970年に着任しました。その頃は大学の周りは樹木が鬱蒼としていてほとんど何もなく、道路もコンクリート舗装されておらず、医学部付属病院に地域の方々が受診に訪れる姿が見受けられる程度で静かなところでした。私は杏林大学に来るにあたって革

靴を買いましたが、よし、この靴がすりきれるまで一所懸命働こう、臨床と研究と教育に励もう、と決意したことを今でも明確に覚えています。

当時の杏林大学病院は結核診療科、精神科、内科の3つでしたが、その後いろいろな科が増えていきました。

1970年に文部省は医学部を持つ新設大学として杏林大学、川崎医科大学、そして北里大学と国立の秋田大学の医学部増設を認可しました。その後は単科の私立医科大学がどんどん設立されいわば乱立状態になっていきます。

杏林大学はその後保健学部、社会科学部、外国語学部を開設し総合大学になります。それは現松田博青理事長が杏林大学を総合大学として発展させようという強い信念をもっていただからで、それが次々

と実を結んでいったのです。

——医学部は最初の2年間は八王子キャンパスで教養課程の授業を行っていましたが、先生は八王子キャンパスにも通っておられたのですか。

長澤：私は内科学が専門で4学年からの講義と臨床実習を担当したので、八王子で教えたことはありません。1979年に医学部の教養課程が三鷹キャンパスに移転し、保健学部が三鷹から八王子キャンパスに移転しました。そして、八王子キャンパスに社会科学部（現在の総合政策学部）、外国語学部が設立されて現在の4学部3大学院研究科を有する総合大学に成長したのです。いま両キャンパスで約5000名の学生が学んでおり、創立時を振り返って感無量です。

——当時の医学部の学生はどんな感じ

だったのでしょうか。

長澤：当時もいまも医学部進学を希望する受験生は文系理系の学部の中で最も多いので、競争は大変でした。学力を試す一次試験、医師となるのにふさわしい人か否かを見る面接試験を経て入学してきた若者たちなので、優秀な若者が多かったと記憶しています。卒業生の中には母校をはじめ、医学部の教授、准教授として活躍している者もかなりいます。杏林大学医学部の卒業生のよいところは、患者さんの立場にたって臨床にあたり問題を解決してゆく修練がよくできていることだと思います。

杏林大学医学部の特長の1つが救命救急の分野です。もともと外科医であった現在の松田理事長が、救命救急の必要性を感じて高度救命救急センターの開設に

尽力しました。理事長はわが国のこの部門のパイオニア的な存在で、先見の明があったといえます。その頃大阪大学の救急部出身の島崎修次教授を杏林大学に招聘しました。その後、松田理事長と島崎教授の2人が日本の救急医学をリードしていくことになるわけです。

杏林大学の医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部は、現在まさにそれぞれの歴史を創っている最中であるといえます。教育の成果が具体的に表われるまでには時間がかかります。

我々はこれまでの大学改革のプロセスの中で、PDCAのうち、Plan(計画)、Do(実行)の2つは精力的に取り組んできましたが、Check(評価)とAction(改善)の部分と比較的弱く、このCheck以降の部分にも重点をおいて大学改革に取り組んでいきたいと考えています。

FD、SDの必要性*

—今後の杏林大学の課題として何があるのでしょうか。

長澤：教員については各学部、あるいは全学的にFD(Faculty Development)に積極的に取り組んでいくこと、事務職員についてはSD(Staff Development)に積極的に取り組んでいくことが大切だと思います。昨年医学部と外国語学部のFD(半日、あるいは1日にわたり、テーマを決めて学部全教員が一堂に会して討論を行う、時に外部から評価者を招く)に参加しましたが、とても実りの多い集まりでした。また、よい教育は教員のみでできるものではなく、事務職員との共同作業が必要です。最近では教員と職員が車の両輪となって大学を良くしていこうという考えが共有されてきました。大学は経営・学事・事務が歩調を合わせてこそうまく運営できるのです。

—これまでは4学部がそれぞれ個別に動いて、それぞれが特色を出す必要があるとして、あまり縛られないでやってきたのですが、そのために大学として1つの核になるものをつくってこなかったと

思います。

長澤：そうですね。昭和30年から40年代にかけての大学は、国立も私立も学部が独立・自治を謳った時代でしたが、現在はこの風潮は大きく変わってきました。また、変わっていかねばならない時代です。

* FD 教員の教育力を高める取り組み
SD 事務職員の能力を高める取り組み

中長期改革4つの提言

—長澤先生が学長として具体的に取り組まれたことは何ですか。

長澤：いろいろありますが、大きな取り組みの1つは、2005年に中長期改革委員会を発足させて中長期改革4つの「提言」を行ったことです。「提言」の1つに「特色ある総合大学をめざす」が入っています。これは、出口の見える学部教育、付属研究所等の創設、地域との交流による特色のある大学づくり、国際交流の推進の4つが柱になっています。中長期改革の目標に基づいて計画をたてて実践してきており、学部がそれぞれ特色ある教育を推進しはじめるなどその成果が表われはじめています。

それから、これは大学の根幹に関わることで、中央教育審議会答申は、大学のめざすべき機能として、世界的研究・教育拠点、高度専門職業人養成、幅広い職業人養成、総合的教養教育、特定の専門的分野の教育研究、地域の生涯学習機会の拠点、社会貢献の7つをあげています。今後は大学としてこの中のどの分野をいかに実行していくのかを明確にする必要があります。

どんな学位が取れるのが大事

—これまで外国語学部はすべての卒業生に「文学士」の称号を授与してきましたが、平成22年度に観光系の学士課程をつくることによって、新しい学位が生まれます。学生からみれば進路がより明確になりますね。

長澤：各大学は然るべき学位をつくって

よいことになっています。外国語学部卒業生は現在は全員「文学士」となりますが、応用コミュニケーション学科などがあるように、「文学士」だけの学位では実際にはピッタリしていないわけです。杏林大学を全学でみると、「学士」は医学部は「医学」が1つ、保健学部が6つ、総合政策学部が2つ、外国語学部は「文学」の1つがあります。外国語学部は実際には「観光学」あるいは「英文学」などと分類でき、「文学」だけでは受験生はイメージがわからない。もっと具体的に学位の種類を掲げて学生が何を学べるのかをもっと明確にすべきだと考えています。

—そこを見えるようにカリキュラムを適切にしていかなければならないのです。やはりFD・SDを行うことが必要なのですね。これは全学共通の問題であり、現在の社会を見てどうい学位が必要とされるかを考えるべきだということですね。

長澤：杏林大学における学士教育の位置付けの重要性をみんながもっと認識して教育に当たるべきです。その上で、杏林大学全体としての特徴は何なのか社会にもっとPRすべきだと思います。

中教審の答申にもあるように21世紀型市民の教育・育成がまず第1の使命と考え、それにどう貢献しているかを社会に知ってもらうことが大切だと考えています。

—今後は、4学部間で共有すべき部分をつきつめていかなければなりませんか。

長澤：そうですね。各学部の特色つまりこの学部で学ぶと卒業後どういうキャリアを歩むことができるのかを明確に示すことがまず必要ですが、同時に杏林大学は4つの学部を通して学生が卒業するときに自分の成長を実感してもらえるように努力するという共通した方針を柱にするべきだと思っています。

—学生からみればどの学部を卒業したかよりも、どうい学位を取得して社会に出ていくかが大事だということですね。

長澤：杏林大学ではどのような学位が取得できるのか全学的には分かりやすい形で示していると思っています。杏林大学の持っている教育資源を活用してどのよ



学長：長澤俊彦 ながさわとしひこ
専門は内科学(腎臓病)。東京大学医学部卒業後、同大医学部講師などを経て1972年杏林大学医学部教授に就任。同大医学部長などを歴任し、98年杏林大学学長に就任、現在に至る。第5回ベルツ賞などを受賞。

うな人材を養成するのかを明確にして社会に示す。これが学位につながるわけです。また社会のニーズに応えるため外国語学部、総合政策学部では学部の垣根を越えて教育を行うことも必要だということ念頭におくべきです。一方では、杏林大学は他の大学にはない特異性、特徴を打ち出していかなければならない。

産学連携キャリア支援交換会などで企業の方からよく耳にするのは、文系2学部の特徴として素直でいい学生が多いということです。杏林大学は医学部から始まったこともあり、大学の特徴を打ち出すためには、医の特性を活かすべきだという意見をよく聞きますが、はたしてそうなのでしょうか。大学としての太い柱を持ちながらそれぞれ各学部の持つ独自色をもっと出していくべきです。そうしないと、大学全体として伸びていきません。

課題を1つ1つクリアしていこう

—今後、杏林大学がめざすべきことは何でしょうか。

長澤：大学の使命は申すまでもなく教育・研究と地域貢献の3つです。これからは教育についてはよりよきカリキュラムを学生に提供できるよう努力すること、すぐれた研究はすぐれた教育者から生まれるとの原則を尊重して各教員がそれぞれの置かれた立場から努力すること、地域貢献は従来の個人あるいは学部単位から大学全体として組織的に行うように努力することが必要だと思っています。

—最後に、杏林大学の学生にたいする学長としてのメッセージをお伺いします。

長澤：杏林大学は、学生の皆さんが目標としている学位を取得することを全面的にサポートするというポリシーをとっています。ぜひ教職員と密に連絡をとって実りあるキャンパスライフを送っていただくことを願っています。

—ありがとうございました。

学生支援検討委員長 原田奈々子

「連携」という課題

—大学間の連携は、地域間の連携と、系統が似た大学との連携の2つに大別されますが、杏林大学においてはどうかあるべきでしょうか。

長澤：大学にとっては連携が大事な課題になっています。地域間連携、そして同系統の大学、似た特色を持つ大学とお互いを高めあう連携も大事です。また、高校教育との連携も必要です。社会人をいかに八王子キャンパスに取り込んでいくかも課題です。

地域連携についていえば、今の杏林大学はまず身近なところからやっていくべきで、八王子地域全体を視野に入れつつ、近

隣の宮下町の小学校や中学校がある加住地区などとは強く連携し、そして多摩北部、たとえば拝島や羽村地区なども連携していく必要があります。

—学生支援に杏林大学は力を入れてきており、今年の4月には八王子キャンパスに学生支援センターが開設されます。

長澤：杏林大学がこれまで学生支援について力を入れていなかったわけではありません。各学部や学生課、キャリアサポートセンターなどの部署はそれぞれ学生支援に取り組んできました。しかし、それぞれの横の連絡が十分とはいえませんでした。それで学生部長、学生部、学生課の関係を明確にし、学部間で分断されていた取り組み

を統合できるならば、学生のキャンパスライフ支援はより効果的になると考えてセンターを設立したわけです。



杏林大学の地域交流の一例。八王子キャンパス近隣にある市立加住小学校では、杏林大学の学生たちが算数や国語の学習補助にあたる。毎年12月には留学生が昭島市立清泉中学校の生徒と国際理解のための交流会を開いている。写真は昨年12月5日に八王子キャンパスで行われた交流会の様子。

学生の成長をサポートする 「学生支援センター」4月からスタート

平成21年4月から、本学八王子キャンパスに学生支援センターが設置されます。

これまで八王子キャンパスでは、保健学部、総合政策学部、外国語学部、学生課、保健センター、キャリアサポートセンターといった各学部、各部署がそれぞれ力を入れて学生支援に取り組んできました。ただ最近では、こうした支援を十分に受けることなく大学生活になじめないまま不登校になったり、相談する相手もなく修学意欲を喪失して大学を中退する学生が増えつつあります。

学生支援センターは、学部や支援部署の連携を強めて学生支援をより積極的に推進していきます。今後、学生のみならずキャンパスライフの楽しさや確かな満足感を受けるようキャンパスの環境を整備し、学生の人間的な成長をサポートするために新たな学生支援を展開していきます。

学生支援センターの主な事業

- ①**総合支援**：学生の人間性を育成することを目的としたさまざまな支援プログラムを企画運営する。
- ②**学生生活支援**：学生生活環境の充実と質的向上を図る。
- ③**経済支援**：奨学金の申請取扱い、学生アルバイトの紹介、学納金等の取扱いを行う。
- ④**課外活動支援**：人と人との絆をつくり、学生の自主性・自立性を伸ばすクラブ同好会活動やボランティア活動、学生のアイデアに基づく自主活動などを通して自己実現を支援する。
- ⑤**学生相談**：学生の日常的な相談からメンタル、悩み相談に応じる。
- ⑥**留学生支援**：留学生の生活面のサポート、留学生と日本人学生との交流を進める。
- ⑦**同窓会支援**：在学生と卒業生との交流を図る。

大学生は4年間をとらして、子供から大人へと精神的にも身体的にも大きく成長します。この時期に様々な経験を積むことで、人間性がより磨かれ、社会で活躍するための基礎的素養を身につけることができます。

「大学生活で困った」「わからない」「何かやりたい」「悩みがある」。どのようなことでも、学生支援センターにきて相談してください。

「わからない」のは当たり前、「悩みがある」のも当たり前。すべてが学生を人間的に成長させる大切なハードルなのです。大学生活で遭遇するさまざまなハードルを乗り越えるように、生活面から精神面までをサポートするのが学生支援センターの役割です。

キャンパスの主役は学生です。多くの学生のみなさんが当センターの活動に積極的に参加し、充実した大学生活を送れるように願っています。またご父母のみなさまもお気軽にご相談、ご意見を寄せていただければ幸いです。

学部長メッセージ

魅力ある学部教育をめざして

学部はいま何に取り組んでいるのか
学部の現状と展望

医学部 Faculty of Medicine



医師としての自覚と、やさしい心を育むこと
それが「良医」を育成する教育の基本です

医学部長 跡見 裕

あとみ ゆたか
専門は外科学（消化器病学、肝胆膵、
画像診断）

杏林大学医学部は三鷹キャンパスにあります。三鷹キャンパスは、若者でにぎわう街として有名な吉祥寺がすぐ近くにあるとは思えないほど、緑豊かな武蔵野の面影を残したところ。春には杏の花が咲き乱れますが、桜の花との違いがわかるでしょうか。ぜひ杏林大学を訪れて杏の花を愛でていただきたいものです。

日々努力の6年間

医学部の学生数は650人と多くありません。一学年の定員が90人で平成21年度から入学者が105人になりますが、それでも、まさに少数精鋭です。授業はほとんどが必修で、朝から晩まで講義・実習に追われています。6年間は長いようですが、学ぶ内容を考えると決して十分な時間ではありません。医学はどんどん進歩しており、学ぶこともどんどん増えていきます。それに加えて関連した自然科学、人文科学、社会科学も複雑多様になっており、学ばねばならないことが山のようにあります。この限られた時間で基本的な医学の体系を修得し、さらに最新の知識を理解し得る知的水準に達するには、並々ならぬ努力が必要です。

学生諸君が日夜たゆまぬ努力をしていることに感服しているだけでなく、私たち教職員もそれを支えるために頑張るべく精進しています。

授業と実習、すべては医師となる礎

医学部の授業は最初に基礎医学、次いで臨床医学へと進みます。私たちは、学生に早くから医師となることの意味を感じ取ってもらうために、早期から臨床的な経験を積むことが必要だと考えます。

新入生は入学式を挟んで3日間のオリエンテーションがありますが、その中に既に臨床的な内容も盛り込まれています。また1年次に、臨床医学の様々なトピックス的な話題に接することで臨床への関心を高め、6年間の学習の意義や、自らの目標を明確にするための授業も設定されています。こういった early exposure（早期臨床体験学習）により、意欲をもった学生が育っていくことを期待しています。

基礎的な科目の中で、生物学、化学、

物理学はいずれも医学と結びついた授業が行われています。この科目の中で受験に際して選択をしなかったものは、それを補うための講義があります。

2年次には解剖実習、3年からは臨床の講義、5年からは臨床実習が始まり、いずれもいつまでも記憶に残るものとなるでしょう。

充実した環境で基礎医学・臨床医学を学ぶ

基礎医学、臨床医学部門には学生を指導する多くの教員、職員がいます。基礎医学には解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、感染症学、衛生学公衆衛生学、法医学の各教室と様々な共同研究施設があり、学生教育と研究を行います。教員は学会や学術雑誌で優れた研究成果を発表し、医学の発展に貢献しています。

臨床医学は、わが国でも有数の規模を誇る付属病院で主として行なわれます。付属病院は多摩地域の基幹病院であり、入院患者も多く、外来患者、特に救急で受診される方も少なくないのが特徴です。比較的軽症の方を診療する1・2次救急と、重症者を対象とした3次救急はいつもフル回転の状態です。学生が必要な救命救急処置を学ぶには最高の環境といえるでしょう。

学業・課外活動の両立

とにかく医学生は勉強で大変忙しいのですが、その中で課外活動も盛んに行なわれています。

スポーツ関係のクラブでは、関東医科歯科リーグで優勝したり、一部リーグで活躍している部も少なくありません。

医学生のスポーツの祭典が「東日本医学生体育大会（東医体）」です。これは参加者が1万5千人を超える大きな大会で医学生の国体といえるものです。2011年に杏林大学医学部がこの会を主催することになりました。長澤俊彦学長を名誉会長、松田剛明副理事長が大会長、佐藤喜宣教授が東医体理事長に就任することが決定し、学生側の役員とともに大会開催に向けて発進したところです。この大会を成功に導くためにぜひ皆さまのご協力とご指導をお願いしたいと思います。



医学部における臨床講義。医学部の5年、6年になると実際の症例を呈示した臨床現場さながらの講義が行われる。

保健学部 Faculty of Health Sciences

医療現場から、社会へ
広く開かれた「保健学」を学んでほしい

保健学部長 大瀧 純一

おおたき じゅんいち
専門は精神看護学（精神看護学概論、
精神保健学、精神看護学）



保健学部は、社会のニーズに積極的に応えるために医学部および付属病院と連携しながら、保健学を学ぶ環境を幅広く整えてきました。現在保健学部が取り組んでいる教育は、疾病の診断に必要な臨床検査技術、健康や環境を維持管理するための健康教育や管理技術、救急救命の技術、疾病や障害をもつ方を看護・介護、支援する技術やリハビリテーション技術、医療現場で使われる機器の操作や保守、点検、開発など多岐にわたっています。近年は付属病院の脳卒中センターへの入院患者の増加に見られるように、リハビリテーション分野の重要性が増していることから、平成21年4月、理学療法学科を新設し専門家の育成を行います。すなわち保健学部は既存の臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科、臨床工学科、救急救命学科の5学科に1学科加えて6学科体制となりました。

良質の学習環境と多様な就職先

教育環境を考えると保健学部のある八王子キャンパスは学習には最適です。緑豊かで心が和み、専任教員は学生約10名に対して1名と手厚く、特に特別演習や卒業研究は、きめ細やかな指導を重視しています。また、最新機器を揃えた様々な実習室を有するだけでなく、付属病院をはじめ、多くの病院や施設でも実習を行っています。さらに、大学院保健学研究科を併設しており、質の高い教育を行える体制にあります。

4年間に蓄えた実力を社会で発揮できるように学生の就職にも力を入れており、キャリア・サポートセンターと協同して多様な就職先を開拓してきました。その結果現在の就職状況は、医療施設だけでなく、厚生労働省、製薬会社、地方自治体など様々な分野へ進出しています。

国家資格取得に力を入れる

今年度の就職状況は、昨年度とは様変わりして推移しました。年度はじめの平成20年4月頃は経済状況が多少悪化していましたが、まだ楽観論が支配的でした。ところが9月以後急速に不況の波が押し寄せ、就職状況も大きく様変わりしました。たとえば検査企業に就職しようとする場合、夏頃までは国家資格の有無を問われることはほとんどなく、無資格であっても、さほど就職に影響することはありませんでした。しかし、9月以降の急速な不況突入で、企業の態度は一変しました。国家資格を取得し、なおかつ積極性のある学生に的を絞ってきたのです。

こうした中で保健学部の4年生の就職状況は幸いにも昨年とほぼ同じ状況になっています。このことは国家資格の取得に力を入れかつ自発的に学ぶ力を養うという本学の教育方針が、不況の波にさらされている企業が大学に求める人材像とうまく合致していることを示しているといえます。

各学科の現状・課題、方針

- **臨床検査技術学科** 病院、企業とも団塊世代の退職が続くことから、就職は好調を維持するものと思われます。しかし大学卒プラス臨床検査技師資格取得が絶対条件になります。
- **健康福祉学科** 医療系をベースにした養護教育を行っている大学は大変少ないために注目を浴びています。私立学校の養護教員はもちろんのこと、公立学校の養護教員もめざし、さらに試験科目の近い公務員試験も挑戦できるようにカリキュラムを整備したいと考えています。
- **看護学科** 就職は好調で、希望する病院等へ就職は可能な状態です。しかし看護大学が全国で170校を超えており、卒業後の実力が評価される時代になってきています。在学中のしっかりした学習がこれまで以上に大切になります。
- **臨床工学科** 平成21年度に完成年度を迎え、平成22年3月に最初の卒業生を社会に送り出します。国家試験、就職の準備が始まりますが、すでに求人依頼がきており、大変良い結果を得られると期待しています。気を抜かないで日々努力していきたいと思えます。
- **救急救命学科** 救急救命課程として既に実績はあります。救急救命士という仕事は知力プラス体力が物をいう世界であり、どちらも専門家が指導していますが、日々の努力が一番大切です。
- **理学療法学科** 平成21年4月に初めての1年生を迎えますが、既存の学科に負けず劣らず優秀な教員、設備を配置しており、期待して頂きたいと思えます。

保健学部の基本方針

本学で得られる資格は、保健学分野の知識や技術を社会に活かすために必要とされるだけでなく、その知識や技術に更に磨きをかけることによって、将来の目標設定にも役立つものです。大学生は保健学の広がりを理解し、それぞれの進路に要求される資質を伸ばすよう努めることが大切です。不況に強い本学部は学生一人一人の個性を大切にしていき、社会に誇れる卒業生を輩出していきたいと考えています。ご父母の皆さま方のご協力、ご支援、宜しく申し上げます。



4月から看護学科は実習等に最適な付属病院がある三鷹キャンパスへ移転する。写真は新しい看護・医学教育研究棟の大講義室。

総合政策学部

Faculty of Social Sciences



自分の力で判断する見識の上に
社会の諸問題を理解し解決する実践力を養う

総合政策学部長 松田 和晃

まつだ かずあき
専門は古代日本の仏教文化と宗
教制度に関する史料の分析

総合政策学部は、1984年に本学最初の文系学部として開設されました。当初の社会科学部という名称は、その後、学部の教育内容をより明瞭に表現するとともに、社会の急激な変化にともなう要請に機敏に対応するため、2002年に現在の学部名へ変更し、大幅なカリキュラムの改正を実施しました。さらに2006年には、それまで1学部1学科4コース制であったものを、総合政策学科と企業経営学科の2学科5コース制に改めて、今日に至っています。

総合政策学部がめざすもの

総合政策学部がめざすもの、それは実社会を構成している複雑な社会現象の構成要素を、ただ単独に抽出し知識としてとどめさせようというのではなく、それらが有機的に関連しあって織りなしている現実の諸相を、さまざまな観点より眺めながら総合的に理解し、問題解決のための有効な方策を立案・実行できる能力を体得させることです。そして、自分自身の存在と社会全体との関係や日々の行動が持つ意味を明確に意識し、自信をもって目標への努力ができるような、社会に有用な人材を育成することです。

社会科学部設置時の趣意書には、「今後わが国がますます発展し、国際社会においても先進国家の一員として諸外国と協調していくためには、(中略)これらの諸分野の知識を総合的に保持し、国内外の社会を科学的に理解したうえであらゆる状況に対して臨機応変に対応できる人材の育成が急務である」と明記されています。本学部は、これらのことを、手作り教育の理念とともに、四半世紀の間いささかの揺らぎもなく、基幹をなす目標として堅持してきました。

社会の変化に対応

その間、日本や世界の情勢がめまぐるしく移り変わり、それに伴って社会が求める人間像も変化を続けてきたことは周知のとおりで、本学部では、これら現実社会の流れの速さに応じた教育内容と教授手法の開発を常に続けながら、多くの卒業生を社会に送り出して来ました。今日では、当学部を巣立った約7千5百名の方々も、世界中の公私の機関や企業などにおいて、先人たちの創った川の流れを引き継ぎ、自らその流れの一部と



総合政策学部 湯下博之客員教授の授業「外交政策論」。外国語学部生も選択できる授業で、受講者も多いため大教室で行っている。総合政策学部は1・2年次でしっかり基礎を学び、3・4年次に専門性を深める授業へ移っていく。

なって、社会の発展に貢献しつつありますが、それは私たちが心から誇りとしているところです。

新カリキュラムでさらに充実

現在も、こうした実社会の多様な現象を総合的に把握・分析・評価し的確に対応しうるような能力を、さらに高めるため、新たなカリキュラムを策定中です。

学生の学問的・人間的個別指導に重点を置くゼミナールと、分野の異なる複数の専門家が集まってさまざまなテーマについて考え合う学際演習を中核に据えるとともに、大学における学問が違和感なく受けとめられるように初年次教育を充実させ、また一般教養的科目についても、ひとかどの社会人となるための不可欠な知識という観点から、内容や配当年次などを検討しているところです。

見識育成と
社会貢献できる人間性を培う

日々の生活のなかで、自分に課せられた社会的使命を明確に意識するような局面は、必ずしも多くありません。しかし現代の私たちの生活は、たとえどのような部分であっても、それを考案し、修正し、適用させてきた多くの人々の努力によって支えられています。こうした先人の遺産が流れる大河の畔に立つとき、私たちがなすべきは、上流から流れてきた様々なもののなかから、有益なものや不要なものを選別するとともに、新たに後世へ伝えるべき価値のあるものを付け加えて下流へ送り出して、さらなる発展の礎の一部になることでしょう。

このような社会的・人間的責任を果たすためには、自らの手で価値の選別を行えるような力が不可欠です。総合政策学部は、現代に繰り広げられる多様な社会現象の理解を通じて、そうした正しい見識を育成し、かつ円滑に社会に貢献できるような人間性を培うための教育を行うことこそ、使命であると考えています。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

外国語学部

Faculty of Foreign Studies

外国語の運用能力をベースに、
異文化コミュニケーションによる
理解と交流が時代を拓く

外国語学部長 赤井 孝雄

あかい たかお
専門は19世紀を中心とする
イギリス文学・文化研究



「人間」に強い関心をもつ

「私は人間だ。だから、人間に関係あることなら、何でも無関心ではられない。」

これはローマ時代の喜劇作家テレンティウスの劇に登場する人物の言葉です。人間に対する強い関心や好奇心——このせりふほど外国語学部を表現するのに適した言葉はありません。いや、このようなことを言うと、「それは外国語学部に限ったことではない。人間に対する強烈な関心はあらゆる学問に共通することだ」と反論されるかもしれません。では、次の言葉はどうでしょうか。

「人間は言葉から生まれたもの」(ヘルダー)

我々は、情報を伝達するためだけでなく、気持ちや感情を伝えるためにも、そして物事を考えるためにも言葉を使っています。何かを表現し伝達すること(コミュニケーション)と、自身の思考には言語が不可欠なものなのです。

外国語を習得する意義

しかも我々は、言語をもとに、コミュニケーションをしながら思考する、あるいは思考しながらコミュニケーションをしていますから、これらは別個の働きではなく、不可分の一体の働きなのです。多くの人にとってその場合の言語は、一つの母語ということになりますが、バイリンガルやトリリンガルの人にとっては複数の言語となります。このことは、外国語を習得する際に忘れてはならないことなのです。そうでなければ言葉の異なる人々の考えることや営み、ひいては文化を真に理解することはできないからです。(余談ですが、最近出版された水村美苗著『日本語が亡びるとき——英語の世紀の中で』は、色々示唆に富む本です。)

「相互理解」と「共存」にこめた
学部設立の理念

少し話がそれますが、古代ギリシャの哲学者は、世界を根幹でつなぐものに「ロゴス」という名をつけました。そして「ロゴス」とは、「言語」「論理」を意味しています。それを敷衍して、外国語を「ロゴス」として理解し身につけることが外国語学部の目的と言ってもいいのではないかと思います。

「外国語の習得を通じて…異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、「真の国際人を養成する」という学部設立以来の理念はこのような意味を持つものだと考えます。

それを実現するために、学部独自の実践的な外国語習得プログラムである PEP (Practical English Program) と CIC (Chinese for International Communication) によって英語・中国語の2つの外国語を身につけることを必修化しています(留学生には別途日本語習得プログラムを用意しています)。そして外国語運用能力をもとに、言葉、そして言葉によって表現される感性やホスピタリティを活かして活躍できる国際人を養成するために、英語学科、中国語・日本語学科、応用コミュニケーション学科の3学科を設けています。

3学科の教育がめざす人材

英語学科は、実践的な英語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた世界のビジネスにおいて活躍できる人材(英語ビジネスコミュニケーションコース)と、これからの日本社会に求められる「新しい時代に相応しい英語教師」(英語教育コース)の育成をめざしています。

中国語・日本語学科は、近隣諸国の言語と文化を理解し、日本語を母語としない日本語学習者に対する「新しい時代に相応しい日本語教師」(日本語教育学コース)と、中国とのビジネスにおいて活躍できる実践的な応用力を有する人材(中国語ビジネスコミュニケーションコース)を育成し、アジア太平洋の時代の中核となる人材の養成をめざしています。

応用コミュニケーション学科は、外国語の高度な運用能力および自由な発想と豊かな感性やホスピタリティ精神によるコミュニケーション力を基に、21世紀社会を担うサービス産業とりわけ観光産業(観光文化コース)、ならびに情報文化産業(表現メディアコース)に資する人材育成を目的としています。

多様なプログラムを編成
舞台の主演は学生

同時に、大学教育への円滑な移行のための「基礎演習」、就業意識の涵養のための「キャリア指導」「インターンシップ」「ホスピタリティ実習」、さらに10を超える国や地域での様々な海外留学・海外研修プログラムなどを整備し、学生諸君の夢の実現におおいに活用してもらいたいと考えています。また、学習環境やキャンパス・アメニティの改善、学生支援体制の整備などにも取り組んでいます。特に、外国語学部独自のものとして、経済的理由から海外留学・海外研修への参加がままならない成績優秀者に対して「熊谷奨学金」が2009年度より支給されることになっています。

言うまでもないことですが、大学での主演は学生諸君に他なりません。外国語学部という舞台上、人間に対する強い関心や好奇心を忘れることなく主演を演じてもらいたいと思います。「天地のあいだには、…世の哲学(学問)などの思いも及ばぬことが数多くある」(シェイクスピア)のですから。先に紹介した「ロゴス」という言葉には、「真理」の意味もあることを書き添えます。



ピーター・マックミラン教授の授業。外国語学部では「英米文学特論」、大学院では「言語と文化交流」などの科目を担当している。小倉百人一首の英訳「One Hundred Poets, One Poem Each」(コロンビア大学出版社、2008年刊)を出版したことで知られる。

学部・大学院トピックス

医学部

定員増 1学年90名から105名に

医学部医学科定員が、平成21年度入学生より、現在の90名から105名に増員となります。政府は深刻な医師不足に対応するために「経済財政改革の基本方針2008」で従来の医師養成抑制の方針を転換、医学部・医科大学の定員増を決定しました。これに伴い、全国の医学部定員総数は過去最多の水準まで引き上げられますが、今回の杏林大学の定員増はこの措置によるものです。

現在、特に僻地等を含む特定の地域や、産婦人科、小児科など特定の診療科で医師不足が顕著となっていることから、今回の増員分を、こ



医学生として早い段階から救急意識をもち、救急現場でも即座に対応できるよう1年生全員が受講する救命講習。

れら特定地域や特定の診療科に振り向けるための方策を講じることが、各大学に求められます。医学部としてはこの他、増員に伴う教育設備の拡充など、教育水準の維持・向上のために、万全の対応を講じることになります。

最優秀教員、優秀診療科を表彰し 授業の充実を図る

“Teacher of the Year”と“Best Teaching Department of the Year”

医学部は2005年度より、学生による「教員の授業評価」を実施しています。講義修了時にアンケートを配布し、教員の熱意や講義のわかりやすさ、準備状況、総合的満足度など全8項目について学生がそれぞれ5段階評価をするものです。評価結果は各教員にフィードバックされ、授業の改善に役立てられます。

このうち評価が最も高い教員5名を“Teacher of the Year”として表彰しています。2008年は、前年度の評価結果に基づき呼吸器内科の後藤元教授、外科の呉屋朝幸教授、消化器内科の高橋信一教授、感染症学的小林富美恵准教授、病理学の菅間博准教授の5名が表彰されました。

医学部ではさらに、教員の資質・教育能力向上のための取組み（FD:ファカルティ・ディベロップメント）の一環として、これら表彰を受けた

教員の授業をビデオ撮影し、「良い講義」について考える教員の勉強会でこれを供覧し、他の教員の参考にしてもらおうなどの取組みも行っていきます。

医学部では講義ばかりではなく、臨床実習についても学生の評価を導入しています。医学部5年生は付属病院で各診療科をローテーションし、ほぼ1年にわたって臨床実習を行います。この際、各診療科のスタッフの多くが学生の実習に関与します。2007年度より、この臨床実習についても学生の評価を開始、評価の高い診療科を“Best Teaching Department of the Year”として表彰を行うこととし、2008年は呼吸器内科、神経内科、救急科が表彰されました。医学部では今後とも、さまざまな活動を通じて、学生教育の充実に向けていきます。

医学部付属看護専門学校

4月より新カリキュラムスタート

時代に即した看護師育成

看護師不足が叫ばれる中で、国は学生の看護実践能力を高め、新卒看護師の離職率を減らすことなどを目的に、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」などを改正し、看護基礎教育における改正カリキュラムを示しました。改正カリキュラムは安全・安心な医療を進めるための教育内容の充実や学生の実践能力の強化、卒業時の看護技術の到達度の明確化などが盛り込まれています。

本校は、こうした看護を取り巻く環境の変化や法規の改正にあわせて、4月から新しい教育カリキュラムをスタートさせます。

新しいカリキュラム

具体的には学生の基礎学力の変化を考慮して、基礎分野に論理的思考や文章表現を学ぶ「論理学」と医療・看護における原理・原則を学ぶ「物理学」を導入します。

また専門分野では患者さんの状態に応じた看護を学ぶ「臨床看護総論」と「フィジカルアセスメント技術」を独立させました。さらに卒業後臨床現場にスムーズに適応できるよう医療安全やチーム医療の理解を深め実践力を高めるための教育にも力を入れることにしています。

このように本校では各看護学において学内演習、臨地実習の内容、方法を充実させ、卒業時には時代に即した看護実践力を身に付けた看護師の育成をめざしています。

医学部付属病院

脳卒中センターが 東日本一の患者受け入れを記録

「脳卒中センター」は、一刻を争う脳卒中の患者に対して、専門医が24時間体制で高度な専門的治療を開始できるように平成18年5月に開設されました。救急医学、脳神経外科、内科、リハビリテーション科の医師や看護師などが診療科・職種の枠を超えてチームを作り診療に当たっているのが特徴で、平成19年の1年間に819人の急性期脳卒中患者が搬送され、このうち586人を脳卒中センターが、233人を脳神経外科で受け入れ、専門的治療に当たりました。この患者数はそれぞれ東日本の病院では最も多く、血栓溶解薬tPAの使用量は全国一を記録しました。

もの忘れセンターの治療が 国のプロジェクトから高い評価

「もの忘れセンター」は、大きな社会問題になっている認知症に対して適切な診療を行うために、平成18年11月に開設されました。認知症には神経細胞が少なくなるタイプ（アルツハイマー症）、脳の血管が詰まったり流れが悪くなるタイプ、パーキンソン病に近いタイプなどさまざまなタイプがあり、それぞれ治療法が異なります。センターでは最新の知識による診断と適切な投薬、生活指導、家族の相談に応じるなど総合的な治療を行っており、過去1年間の患者数は612人でした。またセンター長の鳥羽研二高齢医学教授が班長を務める認知リハビリテーションが、記憶力だけでなく周辺症状の緩和に大変有効であると、国の認知症緊急プロジェクトから高く評価されました。

保健学部

4年間の集大成「卒業研究」発表会

保健学部は、学部4年間の専門教育の集大成として卒業研究を卒業の要件（必修科目）としています。発表は学会研究発表の形式で行われ、教員が座長を務めます。学生にとっては、「4年間のうちで最も緊張した時」、「苦労した研究の成果を堂々と披露した時」、「最も良く勉強した時？」など、一生忘れられない思い出になっています。



今年度の卒業研究生が所属する33の研究室から選ばれた学生が発表を行いました。

発表を終えて一息つくのも束の間、卒業論文の提出期限が目前に迫ります。卒業研究生は全員、最後の力を振り絞って論文を纏め上げますが、「提出期限ギリギリにすべり込みセーフ」という姿を見るのも恒例になっています。

平成21年度には臨床工学科が、その後の24年度には理学療法学科が完成年度を迎える（4年生になる）ので、卒業研究の分野はさらに広がっていきます。

4月から理学療法学科開設

本年4月より保健学部理学療法学科（定員40名）が新設されます。リハビリテーションという言葉には馴染みがありますが、理学療法士が活躍する場は医療機関のみではありません。在宅医療、保健・福祉、スポーツ医学など、人々の生活を様々な視点からサポートするための人材として期待されています。理学療法学科は、このような社会のニーズに応えるために、実践的な理学療法士の育成、大学教育としての“理学療法学”の発展、質の高い指導者・教育者・研究者の育成を目指しています。

高度救命救急センターや脳卒中センターを付属病院にもつ杏林大学は、心疾患や脳血管障害などの急性期リハビリテーションの分野に強い人材を育てる環境が整っています。



救急救命学科の学生 地域でAED普及に取り組む

救急救命学科の2年生48人が、都立青梅総合高等学校1年生240人を対象に、AED（自動体外式除細動器）を使った心肺蘇生法の講習会を昨年9月に実施しました。救急救命学科は学科の特性を生かして地域でのAEDの使い方指導をはじめとした救命講習の普及に取り組んでいます。

保健学部30年の歩み

保健学部は、昭和54年（1979年）に旧杏林短期大学衛生技術科が基になって開設され、今年で開設30周年を迎えます。臨床検査技術学科と保健学科（現健康福祉学科）の2学科でスタートした後、平成6年に看護学科、平成18年に臨床工学科、平成19年には救急救命学科が開設され、本年4月には理学療法学科が仲間入りします。30周年の節目を迎え、保健学部は医療・福祉系総合学部として更に発展していきます。

在校生リレー エンジョイ☆杏林 Life

スポーツフェスティバルの思い出



スポーツをとおして学部・学年を越えて交流を深めようと2007年に始まったスポーツフェスティバル。八王子キャンパスの一大イベントとして定着しつつあります。2回目の去年のフェスティバルの実行委員長として活躍した青木慎也さんと佐藤隆志さんに話を聞きました。

思い出と感想

青木: すべてが初めてだった昨年の第1回から2期連続で実行委員として携わりました。競技種目の決定や会場の確保など、大会を成功させるために委員や先生方と連日話し合いをしたことが思い出に残っています。

佐藤: 3年生の頃先生の誘いで実行委員入りし、そのまま去年の第2回大会も大会運営に携わりました。参加者の募集に始まり、大会の進行スケジュールの打ち合わせなど初回は苦労しましたが、2回目はその課題を活かして十分な準備期間をとり、委員を増やし何よりも3学部合同で実施することができました。

青木: 初回があったから、去年のスポーツフェスティバルを成功させることができました。

佐藤: 大変だったけど2回目はやるぞとい

外国語学部 青木慎也
総合政策学部 佐藤隆志



う意欲をみんな持っていたんじゃないかな。

青木: 残念だったのは去年の雨。屋外競技種目を変更したり、急な対応に迫られたが、これを経験できたので、今年は慌てることなく対応できると思います。

佐藤: 屋内種目に切り替えたときはどうなることかと思いましたが、みんな競技を楽しんでくれたようで安心しました。回を重ねるごとに新しい課題は出てきますが、きちんと対処すれば、きっとどんどんいいスポーツフェスティバルになると思います。

在校生へ

青木: 大学にはいろいろな行事があります。みんなどんどん参加してほしい。私にとってスポーツフェスティバルは学生生活の刺激と活力になる貴重な経験でした。

佐藤: 今後も学生主体で行う大学行事の一つとして続けていくといいと思っています。

卒業生リレー

北京オリンピック参加

林 光俊 (医学部 80年卒)

昨年、中国で開催された北京オリンピックに日本男子バレーボールチームのスポーツドクターとして参加しました。

20年前からバレーボールナショナルチームを担当してきましたが、チームの一員としてベンチで勝利の瞬間を分かち合えたことは、生涯忘れられない思い出となりました。

かつてお家芸と言われた日本バレーも、国際舞台ではオリンピック3大会連続で出場できず、今回は16年ぶりの悲願達成となりました。しかしここまでの道のりは長く、何人もの故障選手をかかえ、直前合宿で更なる怪我が加わり、もう無理だとあきらめかけたのは私だけではありませんでした。

バレーボール競技は大学時代（杏林大学医学部）に経験がありましたが、将来まさかナショナルチームの一員として活動するとは当時予想だにしませんでした。

学生時代からスポーツ好きで、医者になって



はやしみつと：医学部卒、大学院博士課程修了。現在、杏林大学医学部整形外科非常勤講師・スポーツ外来担当（写真右）。写真は昨年の北京オリンピック開会式で撮影したもの。女子バレーボール帯同ドクターの山口博先生（杏林大学卒業）とともに。

からもいつかはスポーツのドクターになりたいと願っていました。オリンピック出場という思いがなかった基礎には、学生時代のスポーツ活動のみならず医師国家試験合格後に医学の手ほどきを受けた杏林大学整形外科科学教室での数々のご指導のおかげと実感しております。

スポーツ現場で求められるもの、それは、自分はドクターとして参加しているので、やはり医学の知識・技術です。でも医学の“知識・技術”にスポーツ現場の“経験”を少しプラスすることで、見知らぬ選手、監督達とも心が通じあえたと感じました。

最後に開会式では杏林大学出身者という誇りをもって行進したことをお伝えいたします。

総合政策学部

アカデミックな出会いの場

・特色ある「学際演習」をさらに充実

杏林大学の総合政策学部は、その名の通り、社会に関する多くの分野の教員がおり、その総合力を生かして3年前より専門の異なる教員が複数名で担当する「学際演習」を開講しています。学際演習は2名以上の教員が共通のテーマを設定し、それぞれ異なった角度から1つの問題を検討しあうことによって、より深い問題理解を目指す学生参加型の授業です。

一例をあげると、行政学と地域保健学の教員が共同で「まちづくりとヘルスプロモーション」というテーマで、地域住民と行政との協力の方法を研究するという学際演習が好

評を博しました。よく「地域の時代」と呼ばれ、各地でまちづくり・まちおこし活動が盛んに行われていますが、それを一過性の「お祭り」で終わらせないためには、市役所などの行政機関の活用に加えて、地域単位で抱えている問題を「まちづくり」のために力を出し合う住民のグループ化が必要です。ここでは参加教員の専門性を生かして、八王子市内を学生が実際に調査して、とくに地域の高齢者がどのような問題をかかえていて、どういう希望を市役所や地域の隣人たちに求めているかを把握する試みを行いました。

4月からは総合政策学部の全専任教員がいずれかの学際演習に参加し、コマ数も増加します。分野も上に例としてあげた行政+福祉といった問題だけではなく、さらに多様化する予定です。この杏林大学ならではの学際演習はさらに充実します。より立体的な社会の理解を求める学生との出会いを待っています！

目標に向かってスクラム



・簿記検定に向け特別補講を開講

総合政策学部企業経営学科では、平成18年度より1年生でも履修できる「会計学総論」を日商簿記3級の試験範囲を網羅する形で開講しています。また、19年度から八王子キャンパスで日本商工会議所簿記検定3級試験を受検できるようになりました。これを受けて試験直前に実践的な試験対策として特別補講を6日間実施しました。この特別補講は企業経営学科の学生だけでなく、八王

子キャンパスで簿記の学習に意欲を持つすべての学生に開かれています。

・公務員試験に備える

公務員試験の合格をめざす学生のために、総合政策学部では学科を問わず、多くの種類の公務員試験で共通に出題される経済学・政治学・法学の分野について、通常の講義とは別に学ぶ講座を設置しています。

内容は公務員試験向けの概論（憲法・民法・政治学・経済原論）と演習（憲法・民法・行政学・政治学・行政学・国際関係・経済原論）などで、公務員試験の出題傾向の把握と対策に努めています。

〔これまで就職した主な官庁〕
警察署(警視庁)、自衛隊、各地方自治体、消防署(庁)、法務省、社会保険庁、日本郵政公社など

外国語学部

語学習得をめざす学生の本気に応える 利用できる留学・研修・インターンシッププログラム

外国語学部では海外での学びを重要な教育プログラムとして位置づけています。

学生のニーズに応じて、語学習得に特化した研修をはじめ、インターンシップなどの企業体験型の研修、短期の研修から1年間の留学まで様々な形態の研修・留学を提供しています。平成20年度は約90名の外国語学部生が海外研修、留学に参加しました。さらに、留学を志す学生は平成21年度より外国語学部で創設される熊谷奨学金(年額50万円)に応募できます。

外国語学部では本気で語学の習得を志す学生たちをこれからも様々な形でサポートしていきます。

アメリカ	シアトルセントラルコミュニティカレッジ留学(9ヵ月)
カナダ	ビクトリア大学英語研修(3ヵ月)
イギリス	オックスフォード研修(3週間) マンチェスター大学インターンシップ研修(3週間) イーストアングリア大学留学(9ヵ月)
オーストラリア	クイーンズランド大学英語研修(3週間) ウーロンゴン大学留学(9ヵ月)
ニュージーランド	クライストチャーチ工科大学英語インターンシップ研修(3ヵ月)
中国	河北大学(中国語圏はセメスター留学) 北京第二外国語学院 北京語言大学 香港中文大学
台湾	国立政治大学
韓国	高麗大学校(1年間) 韓瑞大学校(1年間)
シンガポール	観光実習(5日間) ソーリズムホテルカレッジ留学(6ヵ月)
タイ	日本航空客室乗務員訓練体験(4日間)

八王子伝統文化を講義

応用コミュニケーション学科は、八王子市に存在する伝統文化をテーマとする講義「地域の伝統文化」を平成20年9月から開講しました。講義は八王子の伝統文化に関わっている多くの方々へ外部講師として登壇していただきました。3年生以上が対象。

八王子市には車人形をはじめとして数多くの伝統芸能が継承されています。本講義は、まず前提として芸能の内容と楽しみ方(鑑賞する視点)を学んだ後、伝統芸能の保存・活性化活動について理解するという流れです。珍しい形態・テーマの講義です



昨年11月26日、八王子車人形5代目家元 西川古柳氏が「八王子車人形の現状と将来」というテーマで講演。

が、学生たちにとってはキャンパス周辺地域の文化と歴史についてより深く知る機会となっています。

留学支援・熊谷奨学金設立にあたって

外国語学部教授 熊谷文枝



1988年4月杏林大学外国語学部の設立と共に、私はアメリカから帰国し、教授として赴任いたしました。着任奉職して以来、キャンパスとともに時を送り、杏林大学での時間は21年が過ぎました。今年3月末で、定年退職いたします。今は、感慨深い思いで一杯です。このたび定年に当たり、退職金全額を杏林大学に寄付し、「熊谷奨学金」を設立していただくことになりました。その経緯を簡単にお話いたします。

1970年8月、フルブライト留学生として、私の小学生のころからの夢であったアメリカ留学生活が始まりました。「ほんの1年、何でも見てやろう」という気持ちではじめての旅でした。それが、約15年にもおよぶとは、思いもよませんでした。

アメリカでの勉強、なかでもアメリカの大学院で博士号を取ることはアメリカ人にとっても並々ならぬ努力が必要です。英語を母国語としない私が、社会学を専攻し、博士号を取ろうと決心したのですから、その道のりは決して平坦ではなく、むしろいばらの道のりでした。

しかし、幸いに留学6年弱(1976年5月)で、社会学博士号を取得することができました。そして、アメリカの大学で教え、また、研究生生活も送ることができました。決して容易ではないアメリカでの勉強生活を、まがりなりにも成功させることができたのは、まず勉強全期間を通じ終始奨学金を授与されたこと。それから、アメリカ人の先生方、同僚の学生、ホストファミリー達の心温かいホスピタリティにめぐまれたこと。この2つのおかげでした。挫折を体験したことは数え切れないほどあります。しかし、そのつどアメリカ人の親切心に支えられ、初心を貫くことができました。

当時、「この恩返しは、どのようにしたらよいのだろうか」と悩みました。すると多くのアメリカ人から、「あなたが、恩返しができるようになった時に、その気持ちを表してください」と言われました。今、私にはそれができる時が来ました。

そこで、「熊谷奨学金」を設立していただき、毎年2人の学生に、各人50万円(1年に計100万円)の奨学金を給付したいと考えています。外国語学部の特質、私のアメリカ留学の体験、私の専攻分野の社会学・比較文化社会論等に関心のある外国語学部3年生の日本人学生2人に毎年奨学金を給付したいと考えています。この奨学金が、学生の語学研修・短期留学の一助となることを期待します。

大学院

●医学研究科

4月から、働きながら博士課程への就学が可能に

働きながら医学研究科(博士課程)への就学を希望する人に対して、特別に便宜を図ることになりました。これは大学院設置基準第14条に定められた教育方法の特例(*)を適用するものです。

具体的には、授業や研究のための指導を必要に応じて夜間や週末、休暇時等を中心に行うもので、これにより大学院教育と勤労の両立が可能になります。

この新たな措置により、杏林大学病院はもとより、学外の医療機関や企業などに勤務する医療関係者や生命科学研究者などに、医学研究科進学への道が開かれます。

(*)「教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行うことができる」

●保健学研究科 【研究が面白い】大学院生からのメッセージ

研究や授業のサポートで充実した大学院生活

保健学専攻 博士前期課程1年 (病理学研究室所属) 岡山 香里

私は、大学4年間で大変熱心に指導してくださる先生方に出会えたことがきっかけで細胞検査士(*)を志しました。

細胞検査士になった今、その先生方の下で更に知識や技術を習得するために、本大学院に進学することを決めました。研究をしていくにあたり、問題に直面することが多々ありますが、大学院生の仲間や他の研究室の先生方に相談できる環境にあるので、研究を違う視点から見られます。

また周囲の人に見守られながら研究を行うことができ、有意義な大学院生活を送ることができています。しかし研

●国際協力研究科

中国語と英語の通訳・翻訳・言語コーディネータのプロを育成 国際言語コミュニケーション専攻が4月からスタート

日中通訳翻訳研究コース：日本初・唯一の同時通訳者養成コース

全大学・大学院を通じてわが国最初で唯一の日本語・中国語同時通訳者養成コースが国内外の関連諸機関の要請を受けて設置されました。現役の日中通訳者には理論研究と技能錬磨の場となり、通訳者をめざす学生にとっては、相当な基礎力がないと消化できないハイレベルな講義と演習を通じてプロへと育つ場となります。中国の諸大学や公的機関からも留学生が派遣されてきます。

英語コミュニケーション研究コース：高度な翻訳力・通訳力、コミュニケーション力を養う

話し手・書き手の社会・文化的背景等、さまざまな関連要素に対する理解を深めることを通じて高い翻訳力・通訳力を養成し、高度で実践的な英語コミュニケーション能力を有する人材を育成します。

学部在学学生も、各学部で身につけた学識を国際社会で活用するための実践的なことばの力を養うために、卒業後、この国際協力研究科新専攻へ進学する道が開かれています。



(*)細胞検査士：顕微鏡をつかって正常な細胞の中から悪性(がん)細胞を探し出す高度な技術を持つ臨床検査技師。日本臨床細胞学会および日本臨床病理学会が知識や技術能力を認定する資格。所定の単位を取得後、4年在学中の11月に1次試験、12月に2次試験が行われる(平成19年度本学合格率100%)。



キャンパス情報①

八王子キャンパス バス通学の皆さんへ

通学バスの利便性改善の取り組み

八王子キャンパスに通う保健学部、総合政策学部、外国語学部の3学部合わせて4,000人の学生のうち3分の1以上の1,500人近い学生がJR中央線八王子駅および京王八王子駅からの路線とJR青梅線の拝島駅からの路線の2本の路線を使ってバス通学をしています。ところがJR八王子駅および京王八王子駅からの通学バスは他の2大学(純心女子大学・創価大学)の学生も利用していたため、いつも混雑している、大学到着の時間がかかりすぎるといった苦情が強く出ていました。

このため八王子キャンパスの快適な環境作りに取り組んでい

るキャンパスアメニティ委員会は通学バス改善部会を設けてバス会社に問題の改善を強く働きかけてきました。その結果昨年から今年にかけて大きな改善が見られました。

JR 八王子駅⇄キャンパスの路線で 乗車時間と運賃が大幅に改善

バス通学の8割の学生が利用しているJR八王子駅路線では、駅からキャンパスを最短距離で結ぶ有料道路が無料化したためこの道路をバスルートとして使うことになり、距離が大幅に短縮されました。この結果乗車時間はこれまで約40分かかっていたのが約20分と半分に短縮され、運賃も440円から370円に改善されました。

また新しい路線はこれまでの創価大学経由のルートではなくなったため、バスの混雑もかなり解消されました。

JR 拝島駅⇄キャンパスの路線でルートの新設が実現

バス通学の2割の学生が利用している拝島路線では、これま

でのルートのほか比較的交通渋滞の少ない道路を使った新しいルートの路線を設けました。この結果拝島駅よりキャンパスに近いJR東秋留駅からの利用も可能となり、利用できる駅が増えました。今後拝島駅のバスターミナルの整備が進められることによって増便を含めた改善が期待されます。

今後の取り組み

八王子駅からの路線では運賃の改善が図られましたが、それでも学生にとってはまだ高い金額といえます。杏林大学のある八王子北部はいま道路の新設や改修工事が進められており、こうした道路環境の改善が乗車時間の短縮、運賃の引き下げ、バスの増便などに結びつくようバス会社と引き続き交渉を進めていく必要があると考えています。また将来的には乗車時間が15分程度に短縮されることが見込まれる拝島路線については学生の利用がもっと多くなるようPRしていくことも必要と考えています。

(八王子キャンパスアメニティ委員会)

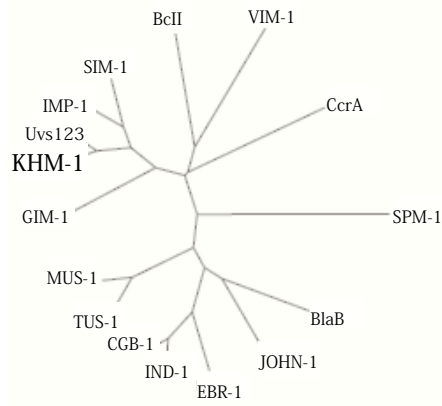
新型遺伝子(酵素)発見!! 杏林にちなんで命名

保健学部臨床微生物学教室を中心とした研究チーム

保健学部臨床微生物学教室を中心とした研究チームが、院内感染の原因菌として重要なシトロバクターという細菌から、新型のメタロβ-ラクタマーゼ遺伝子を発見し、酵素の特徴を明らかにしました。メタロβ-ラクタマーゼは、感染症の治療に使用されるほとんどのβラクタム薬を分解してしまう酵素で、この酵素を持つ細菌は多剤耐性を示すようになります。

現在までに16種類のメタロβ-ラクタマーゼが発見されていますが、日本ではKHM-1が2例目の発見になります。ちなみに、KHM-1は、Kyorin Health Science(s) metallo-β-lactamase-1の略であり、「杏林大学保健学部で発見されたメタロβ-ラクタマーゼ」ということを示しています。

KHM-1遺伝子は、Rプラスミドという細菌の間で伝達するDNAの上に存在するため、他の細菌への耐性の拡がり(伝播)が懸念されますが、今までに耐性の原因が不明とされてきた細菌の中には、KHM-1遺伝子を持つものが含まれていた可能性があります。なお、KHM-1に関する論文は、2008年に発行されたAntimicrobial Agents and Chemotherapyの52巻(p.4194-4197)に掲載されました。



これまでに発見されたメタロβ-ラクタマーゼの分子系統樹

推薦・AO入試合格者にサポートプログラム実施

昨年12月6日、外国語学部と総合政策学部の推薦・AO入試に合格した高校生と保護者を対象としたサポートプログラムを八王子キャンパスで実施した。このプログラムは大学の学習にスムーズに入っていけるように入学前に基礎固めをしてもらうことが目的で、両学部合わせて約300人の高校生と保護者が参加した。大学の授業を経験したり、大学での学習の仕方などの説明を受け、さらに3月までに提出する国語や英語の課題が与えられた。両学部では3月末にも入学直前のスプリングセミナーを開催する予定。

留学生日本語弁論大会で賞を独占

八王子市域の大学等で学ぶ留学生が日ごろ感じていることを日本語で発表する「八王子市域留学生日本語弁論大会」が12月7日に開かれ、本学から参加した4人の中国人留学生が1位から3位までと学園都市文化ふれあい財団理事長賞など上位を独占した。今回のテーマは「日本人が気が付かない日本」。23大学から選ばれた15人が「日本人は我慢強く列に並ぶ」「ラーメンをすする音が気になる」といった普段日本人が何気なく行っている行動についてユーモアを交えながら楽しいスピーチを披露した。

優勝したのは杏林大学外国語学部の田一飛さん(北京第二外国語学院)、2位は大学院国際協力研究科の馬一川さん(北京第二外国語学院)、3位は外国語学部4年の邵婷婷さん、財団理事長賞は大学院国際協力研究科の孫曉英さん(北京外国語大学)が選ばれた。

本学では多くの優秀な留学生が学んでいる。現在NHKラジオ第2放送の「まいにち中国語：ちがいのわかる6か月」に出演中の許硯輝さんも2007年の外国語学部の卒業生。

高校生論文・翻訳コンテスト開催

昨年の外国語学部主催第4回論文・翻訳コンテストに全国の高校生から各部門に計497本の作品が寄せられた。14名の高校生の作品が優秀賞・奨励賞に選ばれ、11月1日に八王子キャンパスで行われた学園祭当日、表彰式を行った。

今年の課題は5月に発表予定。多くの高校生のチャレンジが期待されている。

数字で見る杏林大学①

「2万7841名」。これは杏林学園の開校から平成20年度卒業見込みの学生の皆さんを含む卒業生の総数です。昭和41年に杏林大学の前身である杏林学園短期大学(現在の保健学部の前身)が63名の学生を初めて受け入れました。昭和45年には戦後初めて新設された私立医大の3校の1つとして、99名の医学部生を受け入れる杏林大学が生まれました。こうして当時の医師不足に対応すべく社会のために尽くす人材の養成が本格化しました。その後、看護専門学校、保健学部、社会科学部(現在の総合政策学部の前身)、外国語学部が誕生し、医療系のみならず社会の各方面で活躍する若者を輩出してきました。昨年度は4学部、大学院3研究科、医学部付属看護専門学校全体で1179名の前途有望な若者たちを社会に送り出しました。今、杏林で学んでいる学生の皆さんには2万7841人の先輩たちがいるのです。それに加わる新たな1人として学生生活を充実させて立派な社会人として巣立っていくことを期待しています。

学生デザインの大学グッズ次々登場



学生が企画からデザインまで担当して製作される杏林大学グッズが次々に登場し、両キャンパスの売店で販売されている。

これまでに大学ロゴマークと杏をモチーフにしたキャラクターをデザインしたタオル、クラッチバックが店頭と並んだ。最近では黒地に杏色でロゴマークと大学名がプリントされているストラップや携帯型の人工呼吸マスク、クリアケースなどが仲間入りした。これらの作品は寄せられた学生のアイデアがアメニティ学生ネットワーク部会で検討され商品化された。

自分発見ツアーに参加しよう!



アメニティ学生ネットワーク部会は、学生がキャンパスを離れ、実社会から多様な学びを吸収するための見学会を企画・実施している。「自分発見ツアー」の参加者資格は杏林生であることだけ。ここでは学部を超えた学生同士の交流も活発に行われている。また、実際に見学・体験することで自らの視野を広げ、学習・就職意欲の向上に繋がる効果も期待されている。

●実施報告

実施日	ツアー名	参加者
H19.2.28	衆議院と憲法記念館見学	13人
H20.11.11	築地市場見学会	27人
H21.2.24	鎌倉見学-俳句創作にチャレンジ	20人

ドナルド・キーン名誉博士文化勲章受章祝賀会開催



日本文学研究者として世界的に知られるドナルド・キーン本学名誉博士の文化勲章受章を祝う会が1月4日開かれた。アメリカ・コロンビア大学でキーン博士の指導を受けた外国語学部のピーター・マックミラン教授が呼びかけて開かれたもので、高円宮妃久子様、ブレンダン・スキャネル駐日アイルランド大使、本学松田博青理事長夫妻など多数の関係者が出席して、長年にわたって日本文学を海外に紹介し続けてきた功績によるキーン博士の受章をお祝いした。

金田一 教授の研究室から①



遊びにおいて

最近の学生は、本を読まないとか、漢字を書けないとか、あまり評判がよくないけれど、コミュニケーション能力に関しては、私が学生だった数十年前に比べると、はるかに優れているのではないかと思います。

私が大学生だった頃、教授がときどき、「研究室にも遊びにおいて」などと言ってくださることがあった。今思えば、いろいろお話をしてくださったに違いない、行けばよかったなあ、聞いておけばよかったなあ、と思うのだが、あの当時、そんなこと言われたって、研究室なんぞ行くもんか、と思っていた。

どうしようもなく行くことはあった。単位を落としそうだとか、レポートの提出期限を間違えたとか、そういうときに、「申し訳ありません…」などと言って、研究室のドアをたたいた。そうして、なるべく早く退散する機会をうかがっていた。

緊張する。何を話していいかわからない。どうせ勉強しろと言われるにちがいない。どのように時間を持たせられるかわからない。ともかく、大学の先生なんかとコミュニケーションをする、気楽に会話をすることなど、およそ出来なかった。学生の私は、コミュニケーション能力が極めて低かったのだ。

ところが、今の杏林の学生は違うのだ。「研究室に遊びにおいて」と私がひとことでも

言うと、彼らは本当に、『遊びに』、来るのである。

「退屈ウ」、「せっかく来たのに休講だったア」、「さっきの授業よくわかんなかったア」などと言いつつ、三々五々、彼らはやってきて、部屋でひとしきりおしゃべりをして、また去っていく。その間、なんとなく時間をつぶしていく。私も面白いので、適当に相手をする。とくに、最近の若者ことばなど、彼らから仕入れることも出来て、研究にも有益であったりする。

人は相手によって、状況によって、いろいろな言葉遣いを使い分けなければならない。日本語はそこに敬語というのがあるので、とても面倒くさい。しかし、彼らは、じつに適切に、ことばを使い分けられる。相手の教師によって、話し方を変えることが自在に出来る。失礼ではないぎりぎりの辺りの言葉遣いで、気楽に時間を過ごせているらしい。そういうことが若い私には、とても出来なかったように思う。

偉いなあ、と感心してしまう。ただし、他の先生からは、「要するに、なめられてんじゃないですか?」と言われた。そうだろうが、今度彼らが来たら、確かめなければならない。

金田一秀穂(きんだいちひでほ): 1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。

就職対策に取り組もう

キャリアサポートセンター

世界経済は今年の夏以降から急激に減速しています。消費の低迷や円高などの影響も大きく、多くの企業が減益を余儀なくされ、その結果は雇用にも波及しています。

間もなく新4年生を対象とした民間企業の採用が山場を迎えますが、厳しい就職活動が予測されます。このような環境においては「将来のキャリア像」をしっかり持ち、意志、意欲を企業側に伝える「コミュニケーション力」を高め、基礎学力や文章力の再確認を行っておくなどの事前対策が重要です。個別の進路相談や就職対策の面接訓練などキャリアサポートセンター(CSC)を大いに活用してください。



●キャリアサポートセンター支援プログラム

支援プログラム() 実施時期	対象	内 容
個人面談(随時)	1~4年	進路・就職活動の悩み、エントリーシートの添削などあらゆる相談に対応
社会(企業)見学(8月)	1~3年	実際の企業活動の現場を見学することにより、業務内容、多様な働き方について学ぶ
ジョブカフェ(4~7月、10~12月)	1~3年	様々な業界の人事担当者を学内に招き、業界の話や採用状況についてお話いただく
就職模擬テスト(6・10・12月)	2・3年	就職試験に欠かせないSPIや一般常識などの模擬試験を学内で実施
就職対策ミニ講座(7・10月)	2・3年	自己分析・業界研究・エントリーシート・マナー・面接などテーマごとにCSC職員が指導
学内企業説明会(2・6月)	3・4年	採用実績企業をはじめ、各業界より採用意欲の高い企業を招き説明会開催
就職ガイダンス(6・10・1月)	3年	就職活動の準備や進め方、情報サイトの活用の仕方などについて具体的な対策を指導
就職実践セミナー(11・12月)	3年	面接のポイントやマナーなどの講座をはじめ、集団面接などを実践的にトレーニング
模擬面接(随時)	3・4年	面接試験を控えた学生にCSC職員が面接を実施。ポイントを具体的にアドバイス

健康ひとくちメモ① 花粉症対策

これからスギ花粉症も本番を迎えますが、患者さんにとっては非常に憂鬱な季節となります。

花粉症とは鼻の粘膜に起こるI型アレルギー性疾患で、発作性反復性のくしゃみ・水性鼻漏・鼻閉を主な症状とします。風邪っぽいが少しおかしいなと感じたり、鼻の異常が2週間以上続き、目の痒みなどがあれば、花粉症を疑って耳鼻咽喉科の受診をお勧めします。両親、兄弟に花粉症の方がいると発症する確率が高くなります。

関東ではスギ花粉症発生は2~5月、ヒノキ1~6月、ブタクサ8~10月、イネ4~10月が一般的です。花粉飛散開始日が気象庁などから発令されますので、開始時期が近くなったら注意し、初期治療を開始すると苦しむ期間が少なくて済みます。治療の基本は、原因となる花粉に触れない

いことで、マスク・メガネなどで予防し、洗濯物を外に干さないようにし、毛織物など花粉が付着しやすい衣服をさけ、室内の掃除、帰宅時のうがい・鼻かみも有効です。初期治療は内服薬、鼻のさし薬などですが、薬剤により特徴が異なるので、症状に合わせて医師に処方してもらいましょう。また、薬の副作用として眠気、口渇などがおこります。内服後の運転は控えてください。

薬物治療の効果がなく症状が重い場合、また、1年中症状がある通年性アレルギー(ダニ、ハウスダストなど)の患者さんに対しては、杏林大学病院は鼻粘膜に対するレーザー手術、鼻内視鏡による後鼻神経切断術を行っています。特に後鼻神経切断術は非常に有効な手術法です。長い間、鼻のアレルギーに悩まされている方は当院受診をお勧めします。

(甲能直幸: 医学部教授 耳鼻咽喉科・頭頸科)

2009年度 学園行事・イベント

4月5日(日)	入学式(前期)	9月17日(木)	卒業式(前期)
5月30日(土)	八王子3学部	9月19日(土)	入学式(後期)
6月上旬	スポーツフェスティバル	10月下旬~11月上旬	学園祭
	杏会総会	11月11日(水)	創立記念日
	(八王子3学部保護者対象)	12月下旬~1月上旬	冬季休暇
8月上旬~9月中旬	夏季休暇	2010年	
		3月18日(木)	卒業式

編集を終えて

新聞を発刊するという事は私達にとってまったくの未経験で未知の分野でした。どんな記事を書いたらいいのか、レイアウトはどのようにしたらいいのか手探りの編集でした。そんな中で出版社編集長の経験を持つ総合政策学部の木下修客員教授から数々の助言とご指導を頂き、やっと発行にこぎつけることができました。感謝する次第です。創刊号にたいすご感想、今後の発行に向けてご意見などお寄せください。

杏林大学新聞編集委員会 事務局 広報・企画調査室
Tel. 0422(44)0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp
URL http://www.kyorin-u.ac.jp